

新公立病院改革プラン・公的医療機関等 2025 プランの概要

【医療機関名】 独立行政法人 国立病院機構 東長野病院

項目	内容
1 現在の医療機能	<p>(病床数) 213 床 (一般) 【回復期 89 床 慢性期 124 床】 (届出入院基本料) 障害者施設等入院基本料 10 対 1 (診療科) 内科・児童精神科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・アレルギー科・小児科・外科・整形外科・耳鼻いんこう科・放射線科・リハビリテーション科 (主な医療) 重症心身障害児 (者) に対する医療・小児医療・児童精神医療・回復期医療 (急性期病院等からの受入)</p>
2 医療機関が抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師不足のため、国立病院機構内の病院からも派遣を受けており、早急な医師確保が最大の課題。 ・ 地域における回復期機能を担うべく、多くの患者を急性期病院から受けているが、今後より一層の関係強化により、地域の患者が病期に応じた切れ目無く必要な医療を受けられる体制を確立する必要がある。 ・ 転院依頼から入院までの待機期間を短くするため、退院調整をスムーズに行う必要がある。 ・ 重症心身障害児 (者) の高齢化など、これまでとは異なる病態に対応するとともに、在宅医療への支援が求められている。 ・ 地域の外来患者数は年々減少しているが、整形外科領域に関しては地域ニーズもあること等を鑑みると将来的にも外来機能を維持するための方策が必要。児童精神科のニーズに対応するため、体制を強化する必要がある。
3 課題を踏まえた将来の医療機能・担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長野構想区域は回復期病床の不足が見込まれ、退院後の受け皿を確保しつつ、これまで以上の紹介患者受け入れ。 ・ 2025年までに慢性期 (重症心身障害医療) は130床へ増床 (+6床) を計画。回復期病床89床は維持。 <p>※ 2019年度に重症心身障害児 (者) 病棟の新築が予定され、合計130床で運営する予定。</p>

<p>3 課題を踏まえた将来の医療機能・担うべき役割 (前頁より続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県の重心医療のパイオニアとして、長野構想区域のみならず他の構想区域からも医療必要度の高い患者の積極的な受け入れ、ポストNICUの積極的な受け入れのための院内体制を整備し機能充実を図る。 ・新病棟開設によりこれまで以上の短期入所受け入れ。 ・在宅療養児の通所事業について、新病棟開棟に合わせた施設面の充実。 ・高度急性期後のリハビリを希望する患者・家族の要請に対応。
<p>4 将来に向けた取り組みスケジュール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度から2018年度には、地域医療構想調整会議における協議を基に、その結果を踏まえて運営方針を検討。 ・2019年度から2020年度にかけて、運営方針に沿った体制等の充実を図る。 ・長野県地域医療構想調整会議の議論の状況を踏まえ、地域医療介護総合確保基金の活用も検討する。
<p>5 数値目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病床稼働率：95% ・平均在院日数：一般病床90日以内